

縄文時代の始まりを伝える遺跡

大平山元遺跡は、蟹田川のほとりに位置する縄文時代草創期の遺跡。この遺跡を特徴づけるのは、なんとといっても「日本最古の土器」の出土です。この遺跡から出土した無文の土器片に付着していた炭化物（食べ物などの焦げ）の年代を測定した結果、約 15,000 年前のものであることがわかりました。

これらの土器片とともに、旧石器時代の特徴を持つ石器群や石鏃が出土したことから、この頃が旧石器時代から縄文時代への移行期であったと考えられます。

出土した土器片の数が少ないため土器の形を復元することはできませんが、日本列島の旧石器時代の終焉、そして縄文時代の始まりを今に伝える重要な遺跡だといえるでしょう。

出土した土器片（外ヶ浜町教育委員会提供）▶



縄文イベント情報

* 詳細は、チラシやホームページ等でお知らせします。
* 皆様からの情報もお待ちしております！

今年もやります！札幌雪偶プロジェクト

今年で4年連続となりました！さっぽろ雪まつりに土偶が出現！？何を作るかお楽しみに！！



▲「発掘！中空土偶」(2017・冬)



▲「しゃこちゃん札幌観光中」(2018・冬)



▲「燃えよ！火焰土器」(2019・冬)

深川フォーラム

☆縄文フォーラム in ぶかがわ

日時 令和2年3月8日(日) 13:30~16:00

会場 カンパニューホテル

●基調講演

北海道縄文世界遺産推進室 阿部 千春 特別研究員
「縄文文化とアドベンチャートラベル」

●パネルディスカッション

「地域の宝をどう生かすか-文化を核としたネットワークづくり-」
(一社) 深川観光協会事務局長、(株) スポーツピア代表取締役社長

夢枕獭氏 トークイベント

☆縄文トークイベント

日時 令和2年3月27日(金)

15:00~16:30

会場 京王プラザホテル札幌 2F エミネンスホールB

●講演

作家 夢枕 獭 氏
「縄文人の精神性など縄文文化の魅力について」

●展示

国宝「中空土偶」レプリカ、北翔大学映像作品ほか

編集 後記 会員の皆様、明けましておめでとうございます。「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産候補に正式決定し、ユネスコへ推薦されました。大きな「一歩前進」となりました。2020年の干支は『庚子(かのえね)』。ちなみに『庚子』は「新しい時代、新しい自分への変化を遂げていく」ことを意味していると言われております。今年も編集局一同、縄文パワー全開で北の縄文の魅力発信に努めて参ります。(T.H)

編集・発行：北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議 編集長 谷 紘道 編集委員 村上、墓田、西島
TEL：011-221-1122 FAX：011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail ebisutan@cbt.chuo-bus.co.jp



HOKKAIDO JOMON CLUB NEWSLETTER

冬 2020

北の縄文

VOL.14

令和2年 2月発行

目次

■北の縄文コラム	・・・P1
■縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて	・・・P2
■会員メッセージ	・・・P3
■道外の構成資産から/イベント情報	・・・P4

北の縄文コラム

堀達也代表からのメッセージ

私ども北の道民縄文会議は、縄文文化の価値や魅力を発信し、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けた気運を盛り上げる道民運動を展開していくことを目的として活動している団体でございます。

平成24年4月の発足以来、多くの方々にご賛同をいただき、現在では約600名の個人会員と20社の法人会員に支えられながら、道庁をはじめ関係自治体や企業の皆様と一丸となって気運醸成の取組を進めているところです。

こうしたことが実を結び、令和元年12月20日、ついにユネスコへの推薦が正式決定され、いよいよステージが国内から世界に移ることになりました。

思い起こせば、私と縄文との歩みは道知事在職中であった平成14年(2002年)まで遡ります。第6回北海道・北東北知事サミットで「北の縄文文化回廊づくり」を提議し、縄文文化の魅力発信に4道県が連携して取り組む現在の体制の礎が築かれました。

それから15年余りが経過する中、当会議の活動を支えてくださった多くの方々のご努力が報われ、ユネスコへの推薦を迎えることができたことは、何にも増して喜ばしく感無量です。また、お力添えを頂いた多くの会員の皆様にも心から感謝申し上げます。

悲願の世界遺産登録に向けて大きな一歩を踏み出したところですが、ここからは、イコモスによる1年半にわたる厳しい審査が待ち受けています。

世界遺産登録の実現に向けては、遺跡そのものの価値はもとより、遺跡を守る地元住民の方々の理解や活動状況、気運の盛り上がりなども重視されるものと伺っております。

北の縄文道民会議では、1万年以上にわたって発展・成熟し人類史上極めて稀な価値をもつ縄文文化の素晴らしさをより多くの方々に知っていただき、北海道初となる世界文化遺産の登録実現に向け、より一層、力を注いでまいりますので、皆様の変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

北の縄文道民会議 代表 堀 達也



北海道 縄文世界遺産推進室
特別研究員 阿部 千春

令和元年12月20日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」を本年度のユネスコ世界文化遺産に推薦することが閣議了解されました。今後はICOMOS（イコモス）による推薦書の審査と現地調査を受け、令和3年春のイコモス勧告と世界遺産会議の決定を待つこととなります。

推薦候補決定の報道後、マスコミ等からも感想を度々求められました。平成25年に推薦書素案を国に提出して以来、推薦見送りが続いていたので、おそらく「ホッとしました」というようなコメントを期待してのことだと思います。ただ、私はその度に一寸困惑しながらも「ようやくスタート位置に付けました」と応えていました。なぜなら、世界遺産への挑戦は、推薦されることが目的なのではなく、17資産全ての登録はもちろんのこと、登録後の活用を軌道に乗せることこそが真の目的だからです。そこには多くの課題が待ち受けています。本当に大切な取り組みはこれから始まるのです。

世界遺産登録の波及効果を考える場合、3つの視点があると思っています。

1点目は「人類共通の遺産として保護し後世に伝える」という文化政策の視点です。これは国際的な協力によって貴重な文化財を守るという世界遺産条約の基本でもあります。

2点目は「自分たちの地域、北海道に世界遺産があることで、郷土を思う心を醸成する」という教育的な視点です。この気持ちが市民参加のまちづくりの基盤になると考えています。

3点目は「来訪者の増加による観光振興など地域経済への貢献」という地域振興の視点です。世界遺産になると来訪者のなかでもインバウンド、特に欧米からの比率が増えるので新たな価値と観光の創造につながると期待が持たれています。

もう一つ、私が期待しているのは、ユネスコで推進している「持続可能な開発のための教育活動/ Education for Sustainable Development (ESD)」への貢献です。

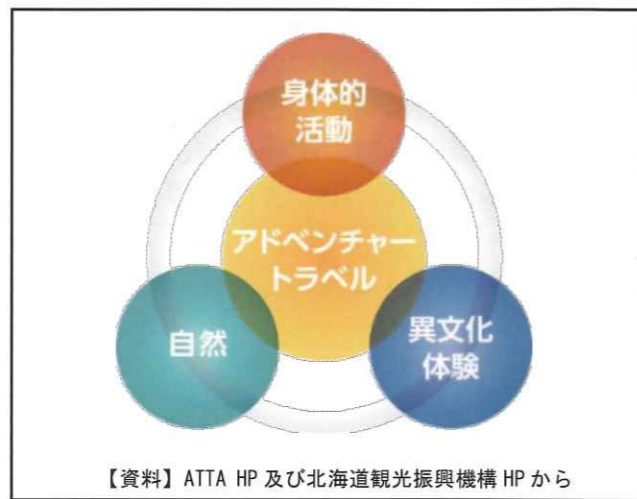
ご存じのとおり、国際社会のなかには差別、貧困、人権、環境、過度の開発など様々な問題があります。

ESDとはそれをまず自分たちの問題として考えることで新たな価値観を醸成し、出来ることから行動することによって持続可能な社会を目指そうという教育活動のことです。また、国連では17の目標を掲げたSDGs (Sustainable Development Goals) を推進しています。自然に謙虚に向き合い、命ある全てを尊重してきた縄文文化の普及や体験を通して、こうした国際的な取組みに対しても貢献できると信じています。

その一つの手法として、縄文文化を素材としたアドベンチャー・トラベル (AT) があります。ATとは「身体活動・異文化体験・自然」のうち2つ以上の要素を含む観光形態のことです。統計によると、AT旅行者が観光に求めるのは「自分自身の変化」や「視野を広げる」ということが主であり、縄文文化がもつ価値を様々な体験を通して伝えていくことはESDやSDGsの推進にも有効であろうと思います。

これまでは世界遺産登録を目指してきました。しかし、すでに活用の方策を地域ぐるみで計画・実行していく段階にきています。世界遺産になると、これまでの普及活動とは別次元のことが起きるからです。各遺跡には遺跡ガイドや体験学習を指導するボランティア団体が活動していますが、世界遺産の活用や来訪者のマネジメントには、地域の稼ぐ力を引き出して、地域の愛着と誇りを醸成しながら観光振興に導くことができるDMO (Destination Management Office) のような組織も必要になってきます。

こうした目標の共有と体制の整備がこれからの課題ではないでしょうか。



北の縄文道民会議 会員 佐藤 博幸

『縄文旅』との出会いは、平成25年7月のHAC丘珠～三沢線就航記念、考古学専門員が同行する『世界遺産をめざした北東北の縄文ロマンを訪ねる旅』に始まります。それまで私は、縄文一人旅で道内、北東北の遺跡を廻っており、平成24年9月17日、ロイトン札幌で開催された縄文遺跡群世界遺産登録推進「国際シンポジウム」で、イコモス委員長ダグラス・コマー氏の『世界における縄文遺跡群の価値』を聴講し、「縄文文化の高評価」「縄文土器には高い美観的な物質文化が描かれ、知性を見て取れる」とする発言に感銘を受け、道民会議の会員となりました。その後、「縄文旅」で道内主要遺跡はもとより、現在まで17構成資産のうち大森勝山遺跡、ニツ森貝塚を除き15構成資産（草創期から晩期までの貝塚・遺跡）に足を踏み入れ、「縄文にはまった人々」の一員になれたかな？と思うくらいであります。

また、日本の基層文化が、縄文文化にあることを再認識し、啓発活動に活かせることを望んでいます。

以下、11月1日から3日間、見出しの旅に参加し、6年ぶりに観た北東北の6構成資産の現況について触れたいと思います。

三内丸山遺跡では、縄文手形のペーパーメッセージ「つかめ縄文2021年の世界登録」（ギネス世界一）が張り出され、大勢のボランティア（英語によるガイドも配置）が案内行き来し、遺跡内では土器づくり教室の「縄文野焼き」が行われ、さらに、新施設で多数の出土した土器、土偶の整理状況も見聞できました。

小牧野遺跡は、大型車両通行も整備され、遺跡前に小牧野の森「どんぐりの家」を設置、専従の女性ガイドも配置され、小牧野式組石の案内がなされていました。

是川遺跡では、国宝「合掌土偶」は貸し出し中でしたが、漆塗出土品展示コーナーは圧巻であり、一王子遺跡出土命名の円筒土器、「低湿地遺跡」ならではの縄文琴、櫛などの木製品等が整然と陳列され、国宝土偶、土器づくり教室も開催されていました。

御所野遺跡では、本年2月に「縄文雪まつり」でご講演の高田館長様が同行案内、ドーム型スクリーンいっぱい縄文の四季を紹介、土屋根竪穴式住居の建築方法、羽根付き縄文土器の教示もあり、土屋根住居の復元遺跡はよく整備されていました。

伊勢堂岱遺跡は、クマ出没で立ち入り禁止でしたが、当日文科省の視察もあり、遺跡に立ち入ることができ、「4環状列石」と「小牧野式組石」の「環状列石B」も確認でき、遺跡縄文館には、きのこ形土製品や鐙形土製品、土偶など祈りに使用されたとみられる出土品が、多数整然と配置されていました。

最後に、大湯環状列石は、すでに両環状列石とも立ち入り禁止の二重のロープが張り巡らされ、野中堂の日時計状組石は詳細を確認できませんでしたが、前回見逃した万座の日時計組石と柱列を確認でき、ストーンサークル館では、大湯式土器のほか、組石に使用された緑色の石英閃緑玢岩や、数を表したと思われる数個の穴が空いた土板が整然と陳列されていました。

昨年11月末の「道内構成資産を巡る旅」と今回の「北東北主要構成資産を巡る旅」の検分を通じ、各構成資産とも世界遺産登録決定に向けそれぞれ課題を含みながらも、当該市町村の各種施策が着実に進んでいることを肌で感ずることができました。それと同時に、私にとって、会員として今後何をすべきかを考えさせられる旅でもありました。

今回の縄文旅において、ナビゲーターの北海道埋蔵文化財センター長沼孝専務理事様から、検分した大湯、小牧野、伊勢堂岱の『3環状列石』と『道内環状列石』の差異についての説明のほか、各構成資産の現場に立ち「遺跡と建物」を五感で感じることの大事さを学びました。

